關疑抄

WA 7
45
4

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

WA 7
45
4

開疑抄 四

1

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

根岸信輔氏寄贈

昭和 帝國圖書之印

闕疑抄 巻第五

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

いふものをとゝめあ
めおとりはしてもちかく
不入おをもむく時　和田れ
ぬと人みはつけよなきの八ほり私といの又あ葉れ
哥ゐ　春日野の雪火の野焼
なわあ葉はてんといふ
そんとをそんるは野
へまより御ん代みあう
はわふりもう色させんと
ひ一おとこ乃秋まよ内の
里はまんのみやりをれ
一うゐく

敷奇ゐ山字ゐもりてもむへし物使此時の
まるいまをもまは使のときの敷奇あとなり
わるく一おふ業平りあ
いふをんの名といふ流有敷奇うれる
内のはうひたくわたく
らもやう神のいのきもこ
おほこや人乃こまく乃一さ
招遣人れうなり。ちもや
えぬ一今れまの男のをし一けくをな
上白同ものなり作るゐなり
えん一ふあ一祢とも業平をまの乃一さをいふ
りいのきをこゆるは法なをこえてもゆさうお

究云心得り大ぎ人ハ雲井よ
おとこ
遠くはあそもんよりちち
うんのいさむるあなくう
上白別れる細おこひ
んまか　うみのいさむる
天のうえそまて陰非陽非
の割するみちりあひやを
むひ　おとも伊勢れくみなり
ありのくみへいくとていこ
女とこ故まおりほへの俗同
強なり第へ後りて書さり

ぬかよとの私はつくもあ
うこてかこりへぬおこ
大よとのうこよ私のあく
かるりくするハうみ有や
あもりハさこてもりとい
をいみうれらなれこを我
あとはは空波とまをあこ
にうみてかへぬみはけい
むひをこみはあをやきあとを
色くをあぬ女のあうをおり
せうう文也法皇うなり文
信のるおをいふ也こハ詞

りふいみくをみはとくまあ月れうち
ろうれあをれ志みそこのわけう
月中ろうに女をそへていみなりはあとうり
よきたへりめまりふれ要まうれうの例の伴勢
りこれうまも万葉れ要まうれうの例の伴勢
如作物語れ意趣なり
ひとおとこ女を丹たうううて
岩藤ふくりさあ乃山りあねを
ありぬ日おくひわさはのれ
み山万あを色あつまともあくろれうふろあま
はわふあり号中ゆはは山河をへをそれとと
あくれそひまとなわ万葉りあをぬ日

おまことひとくうのをとあ歩下句をうへさ乃例
乃伊勢の作物語乃趣なり
むりおとこ伊勢乃くまうりぬていまてあらんとあり
ひられはおんな
まろ男をひきぬていまてあらんとあり
大よとれをはふおみてふみふう
くはいなれわかさあを物とも
そううとのそんとそたいるりんいわれわ心をなくさんぬなわん
とのいるりんいわれわ心をなくさんぬなわん
乃やくくきなるといふわせうさらハさまとをみ
りりあくを心をおくさむ雲いあり我泊云あまは
業平伊勢国りいてあらんをひをう時欲ま

乃至也上句は序ありて下句こはうつゝなくも
ねそかくとあるもほとゝぎすふんふんの業平乃ねまもり
きてこひまのいらせたまへくるをいひれてのまんとそよ
めふ奇なりおきぬとたゝなくさむんなわ業平共
もとれんぬかくさむる俊なわ見るうゝうとゝ一
うひてくまうひ志心あり。大よとの浦みうりか
すこまめくうりのをとれて男
といひてさーてはまなうるとれて男
うちとかくをまこひかへとするよ乃ひとの
心あり
袖ぬまくなきのうかをわこぼうとれ
見るをわふめくやまんせやとる

序奇なり見はをわふめーてまんとするふ
うんいとれそうわめそいふやむまーきゝと也
れんな
いそはうわをみうとりのなまはうくりへまゝ
志かひーかみちのひをきたなん
みゝはは岩間よわ紙みうとりのなまはうくりへまゝ
ふめーつまなくいみるめの心うへ不要めーて
ありされいそれこくゝ女の志ひーかみちう
もとわうふうい男共のおをいふなわ紙泊
る心ありとも動せーをれうとふれはといへとを
云うひをみうんは海をせ
心くゝ志のるへうんの俊なり是を業平をいさ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

めたるうさぎり
ちいろ〳〵をいつてかちらん定なく
みちひろきかれのとのうぬもわも
みおとこ
おこさみそぬまはて〳〵をる世のんの
つ〳〵きく〳〵ろえうでれきほくか
まる神しきかのんちひなめれすうみこのつ〳〵
き心り神のきけくとなりてーかふといふおり
世りわふおをうきおひうちおはは井よはまま
む面白熱白宵空一なひおひ
ゐ秋家乃すきんふわ〳〵さるるく〳〵みくんし
うち一夜乃契まて嬢妊娠もまち宿泊のや業

平の名誉れおとおり祢通ありたる澆撥ありこ
未源し今乃ち階氏ふいさるまて大祢家へまのまた
ゐうおりまそれきろーー楊要ありてりあと
志文ぬれ丁園よりさまてめ百九十八年なわ奇也
くえ芸ん年ちり文禄立年まて七百十九年欽
むーー二条乃伯のまま志文ほとき氏祢ーりてさまひ
ひろきあんくれろくおまろふはてたてまつまさ
そよは車ちわたまつりて兜てまつまさ
志文乃こやをふ条文乃母俵おりの氏祢大原野社
住前津三年開院右大臣多副公乃まろ氏祢志日を
勧結申されち為氏乃后ふハりなりをり啓ろ

五条后順子乃りめく沙啓也このえつかさ業平
比叡山ほと羽林めくいあるつゝしの意趣友を記
するうよりて並欽作物語あれともをもて
祖陽成院ハ貞観十一辛まのまり元年子時二歳業
平ハ貞観六辛三月右近少将ハ在まれ女院
り啓の時近衆司不審なる問ふ二月上乃卯
日十一月中ハ日まつりあの文徳乃御時仁寿
元年初而祭乃ふあの其まゝ後民后文よ里
可りふあるとなりみはうれふすろくを弥下なる
大そゝやをゝかの山をそゝ
弥代あとをなりひいなし

也乃ありて優なる奇なり衆まこやすゐ沙啓ふ
祖ふ天照太神宮春日明神との契をのひーわ
後乃ふーをおりひいたすらんとなろうこまで
二条の后乃そゝ人乃御時ハ更也世ーふを
おりめ出ひやといふんなり弥代とはりとれ
をなとすへきやよ古いたをそれまゐんの物ふ
衆まれ行啓乃ゐのせゝふ江次第十四大系野り
啓製四条后光子以後民勤学院殿為車副二条后
る子以姪業車後主四中納春和奇ふ二条后
昧ゝ人疑ゝ是ふ審事欽

とて心おもれ——と歎おりひきんいつのこおりひきんさくにか
ひ——田むれみうとやしれとあけうきの
くわそれさきれ女はうきおもうわうわ
けわそのうをさまひて安譯ちるめくわさ——ろ
人くはくおりのをわをりたてまはをあつめたる物
ちさくあそのわにわそこをくのさくけそのを来れ
救ふつけてたうの海へろうみてやうめうんろけう
うのまへようちさいそうおむらのみとくいふ益号を文徳天皇と申をるおり
田邑山城山渡わをちのさきうれはあをる
にようそてうむうれは門とあ

尾はの門をやーのあとーを多分安孝良和公の女也
文徳天皇の女はおりいまそのそうりくわをはーは
也なわ女禅ちやまさふみあの弘法大師の法孫
恵雅僧正の財立象后順子はの建立大えこのあろ寺
なわ吹るい仁明天皇の后多徳の女はおりくは
さけ物様物とそはの財文くろ心飯上人まの
らする物我舎のうち投うへ付ふうおもくいくそくなわ
うをりろく動せぬ山かみはのようおきいそ
なるやうおり思見みはわ十九日みわてはの瀬彩はあり
そまを右大おみ面をうわをくふちうのはもゆ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

きとや―いはをうわてうのをくらゐむ
人くをめ―のたゝめてそ
くゝ浪りへあくゝ雲あてまつ
かゝんなりきるをなおめりくゝ
ううのをそるゆとん八論也むゆのう兄業平なり
めもこのひあくゝ月ねるのひを作なくゝ也肖空同
心也ぬ名八道のうひを作ると源氏うあく類也
は敗思ち為八月八遠おうくゝと兄外へをみのうこ
きいてそうやううりゐんくうをいふい業平乃免
いたゝひなくゝなり
ゆのみなうつをてくふうり
嘉元をまをとふやなふるあ

ふまもくふのまろまを述ゐをーみてゐたゆかとんあ
―ちうゐをてこゝろへよるんあふへしう
をくゝのはくけ物やまへ乃こくなふを則ゆをも
くふのわうまをうふ出ゆやといふうさ乃さ為
ゆうみはゐくゐ称とを時ゐ
ぬう―起別雲よまんまれめけあゐて―ゆいを時
乃真う―業―我ハ熱吸そひうまみ時首家氣れ
もよかひふをみことさ乃さ為能く思ひ為ふ
ゐをよゐ兄ちゆをいはこもゐんあれうくり
それかゐいあれやはさをまたおをはものなり作者
即席乃うさをはうり兄ま
乃用心りあくゆえれら業平の自記と兄てくう

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

いまみまへよくもあ〳〵わ
人のあら〳〵まおりをくすも勅云安詳ち五衆石順子
ら建立寺也常〳〵り貞観六年正月十六日奏議
八年十二月十六日右大弁三十一業平貞観七年ら
月右馬以天安章如法ら如何ろ退若欲
むり〳〵ろなりとやしれ御おりまり〳〵まり
うせ弁ひてなくかねものみとさ安詳ちまて志ろわ
右大弁菅原乃つねさとい人いはそのまもうう
のこまさりぬうて弁ひてくさり山ちなのせん
志のみとまた〳〵はをうはまりたき山〳〵なりまりたき
おを〳〵水そらをあとしてなのちろくはくられ
これりまうてたまうてとろまはつかう

まま連とうくいいまのたはうまらひてこまひわ
こうさまうそんとやしの外の
是い前よおうをさ院ちり一はくく別ありもめ此
うろうや勅物云女御源四位下菊第多賢子右
大臣良和女前伴三章十女院天安二章十二月四日
章常一り御三条右大臣良お一男山科之禅門人
康親王也勅云人康親王仁明第四〻弟正男号山
科宮貞観え章ら月入ろ同十四年薨四十二勅
物こ〻やうのり常一り御貞観八章十二月十六日右
大弁三十一業平貞観七章二月右馬以天安二章也されい章数お遠なり
とおりまた院章い天安二章也されい章数お遠なり
此作若は退若欲ろくなりぬうやこ云あやはまろやや天

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45　ガラス使用

安二年よりそいはれをのちの
つまものちの物語りせんこと
不審也のちうにくまで物語
皮なとと一段なと大方うしと
を禅一とやうなるうたをよみ
さいきそをまことのわかよくはもん
をとてくみるをきなり道遠院勤物云女院御賀
子真観十三九女八幸也あの帯も右大将の任を
ほう真観八幸十二月さ業平右る以真観七
幸三月とのわ人康親王出家真観元幸也同十四幸
薨とありけ俊よよ乃女院乃幸する真観
十三みそよくこのとう給うりあるり将以作なり

勤之愚見云叶女院小天安元幸十一月十四日う
幸するう一名文徳ともみも以てくもう志うまとと
常一り右大将よ住するう真観八幸也業平右馬
以を同七幸也もうハけ女院乃幸をはる真観
八幸以後乃なるてとあるを

元こよ給うひなまふてよるのをまう一乃ほうけせ
させ竹ふさほふこの大将いそこたりう竹みやうま
はう人乃りうふさな我やいきへまこ象乃おほ
元ゆなせしけきれくみ乃る里乃さ所にあのをく
いとをおろきいう一うそまれ乃おほこゆれれ
乃ちをは里一うハあう人のこはう志のほ人の
こをうすへうのを志まこみきみるほ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45　ガラス使用

忍な勘云右大将依内監右馬以お律欤内監とした
る察は左大将右る察右大将は妻をつゝたとるあり
けり云ー〜わけ万物乙欤と云わせるのあかみ
里いやしくもうをとはさわするといふなりあこ
れたてまけるいをそうなる一名をわいはなる
あやうかれくと云〜ろりへあるをーの杉さ
若欤さみてまれえれるさおこけ欤なさえまさ
条欤ささみて業平乃奇欤蒔を学絵欤書なり
わりもとを宮あそうみる色乙〜ぬ
心を乙せんよりれをまた
もめてもはををれるりいなはけれとを我ん欤若に
う重くえせまるやをなり肖安人欤おるこ欤ハ色

乙〜ぬそのなりうくてもはをするるハおけま
ともいをまうへてん欤乙すくるりうみういあ
りこをるなり思見まけ山若いんにあるひともも
色乙〜おほのほとをえんををらんさうりのなれ
て宮うりへて乙をそそまつ
時流ふあうみとをいおりへ
ともるうぬなりあうめるりしぬくもされて
若をまのらせんと思みそうるこ欤さーを
いそみかへてまいらするそまゆも外あり称と
なり業平の奇ありめれまくりよく読う
るうのみとよいき妻あくハ石にるなくほに
不可似合迫片面向よみ出されたるをなり

とうんよめりをる
むーうちのおうみこうまの
うふやまんこうさみくわたまの
をおかれまあ
氏乃中ーお親王乃生弟なりき平乃女腹な
真救親王むまれなまふをゆーをなり真救親王女
を葉平の姪うーおくわたまる時おほちうこさ真
救親王乃時おねちり平也り平かこりをく
おきなをた葉平ゆり此真救親王い八歳おく陵奥
を霖そろんゆり
我加とうちひろあくな弦うんつまも
なつみそれうめくれうきき

我乃八号一乃をを云俊ゆりみ発乃竹い仙家にのわ
竹いを庵よーー廉繁也直ゆーそみーあう物ゆり
王道乃んゆうなふ也仙家乃竹乃ちひろやうま
ひうくおんをゆり寿命也童成初れ我河ゆ家
乃ーをみい抱を笑聖ゆーそんの苦痛なる時也を
をふゆゆをうのけりくまた然をなくみ秋
万歳なーんといふんゆり
あまハさうをのとこはのあるをんいひをうわゆ
よ神ー納言ゆきひうのむをめけりうなり
業平お色乃人おれもりーやと人乃家ーそい乃う
んり勤云真救親王清和第八皇子
なり延喜十三薨四十二

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

ひ一おをろへうれいえうふちのうへうれ
人をはゆやようひのほをもりみそのほあそかみの
みんのりとへおをてたてまつるとそうある
業平のまう朝をひけしてそいふ不可信用たのうる事の同うり
平よしうさなわ
ぬまつくう志ねておわほるる事乃同うり
るるハいくうもあ一一とおりをおり
古今集曾二業平朝臣乃哥なわ毎をはぬ連ほくと
いひ初をは志ねておをほる世いひて毎とを初と
をいてさふん詞書うりゆつまとなり三月乃ほ
おりりを毎くくふ乃うとよみくれ曲事りふ

もいくのをあ一一をいふむ面白なわ晦日と云
りいくかをあ一一をいふおほといふあり
あれハあ乃坂もくさくさ人のりひあと也晦日呑ふ
むのひてあうりうりのひくくく云ふとくく也
ひ一坂乃おはいまう地さいふ家我いとおを
うへのそくまに六条わうふ家我いとおを
ろくつくりてすくさまひそりり神世月乃ひこり
うさ菊乃花うふ後ひさうわあふりをみちのらく
さうりふのほおをもあたちおれりまさせて和ひと
よさけのみ一あうひて夜あはりそりほとよこの
ものこれりろきをかむほうとむうこうあの
をうさねをおいくさ一きふあるとひあるとき

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

めしありの
おかのねうりいのうまみまんわさるの死う
法里よう私いこうようらうん
あく戦場的乃掘竈みおなーてなまハいほけーか
うまのうまねまねらん法わすするふ孫をこみ
よまとよりうーかうねうりーかうねうりーかうねうり

やくうろへは風あんばいなるをめらまち
まつ名残もてふ是皆掻乃あり世よ掻
のたえてなくいまの心そのとのなうんといふり
空あんよみうけうみ人はうと
ゐ常一がうる也
ちまへこういとこ掻いめくたけれ
うれ世うーはうひのーうふゐき
これは業平のはまもよこれるまこうまよと思ひ
てよめふなわめてたるれそ
ふ乱り掻紙こうんふのうへみは賞翫すへはまう
き世は盗者必妻乃あとといまり里也と理詰みふハ掻よ
あのといふなる

とそそよ本のりとそなちてうり日くれり
ありぬはとをなる人さけをたせて暗よわいそき
そわけさをを乃こてんそてよきをこう琉りとめ行
りはまの乃うへといふ本よいわめんあうりむま
乃うえおほこおまいるこふひをうかこれ
をうりてはまれうへ乃かとうりめいうれをたひめく
うこよみくこうのはまいこふ
むまのの見よみそてまそまはる
見これ衣馬乃ねみきまの
うわくーこふもこそめる業平歌おとる也
天乃川原うはまはきうおやとうん
こよねーえ七夕つめあまい日をまこ

みこうたをうへにくすへ——ゑを
おくるおのあまたもうまれそ
まうかへし

當坐うり舍辛乃也要元——竹りぬるや之沉酸お
たまへるや惟るはさ——きの
せはまわ竹ふるすを有まうし——きなわ業平れくる
ふかく感——おひそ也——しなお欽そそ——み
時みをよまへそうす也　桜花ちそちらうんち
らんとそたゝ人のきそを見なくみ　白雲れ迫い
たかり擧うなる位はすきぬる世うありう
おれなとある名お打——卿説清輔朝臣乃要道

れるさうりの達者ありし——加と也宇治のく河
ゐ久治とりお駅をとりて舍人の家中うよ見おく
まくをなめんあのては　辛へそる宇治れ橋りり
あとをとりんいく世うありぬ水れゐ上辛へたる
乃お文字をすへうもたるとやーされたるとなり
牧人のうに事ありス王前ゑ和黄花的臭宴的食お
まも業——かまそ法里うりへてそ連歌
人うそ也志とそかこれと沉思するり理也法
おれおんーわつくひ竹ふをみて真をさ俺さー
て有ほひか処哥をよこうれんまの
一とせ又一こひきうをよこうれんまの
をとりを人もあるーーとそ思て

七夕ひこ星めこそ宿彼うさんを婚つるれ
たく人めは宿彼のひるうしは有よ宿のすうそ
わうまーきといるり
一のるりてまにいくせ竹ひめ和よ
拙ーそわるーれみこるひていわ弥ひなんとん
十一日乃月もうくれうんをもそれわおれるひかん
乃よめふ
ゆりくまみみ世漆の主也三月十一日乃るりなる
わりなくうきうきも月乃うくるくか
山乃んにおくいれをもわるのうかなる色玉
古今集十七りありうくるる
のいねちとわりゆをうーとんなりん

よをてはゆ御僧ありもは時てはもし
拙ーいまみとよみてんよ拙ーしうす
見こうりうはをてはつまてきの
をーおへて見林をさいるりなる
山乃はなくいはをいくーを
は撰みは上野業雄とのわ作拙俊の俊り山乃て
ふけく弦ありひちむてうめ里心く明也思見ま
見ねもくいら弦北ーみ重く山もなく平地り
なまーせよめり
むりーえのをようひるひーあれうのえこれ
井乃うわるうまは玉ねをとをりうまのうん
おきふはうまれ日み拙ゆてまかり折ふ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45　　ガラス使用

乃めけ閑居遠栖乃法を尋ひ
てまつらんとは思はさりし
里れそのこや孫うらん君も
旨うやもゆの思りんうれ世
ほとうくやーき墨惟喬乃
さう彩右今ー入道遠院廃勤
おうまーーありされハむ
きーきをやさまとをみと思ひてこれ
を物語乃作者のめくさー
めうれゆへみくさーそくう
とそうんなくくきうそ
ひーおとおわうち乃いやちなうーはうん
ま地きうそれはこなうをうーまひ
うわみは京ふ文ほうなーまひ
志うくえ給うてすひとほうまを
うれきうーー竹ひ申り
業平乃をこうちうるや此所業平の自記
とそこうち乃いやーまうーまひ
俾豆内親王のほ事なりみやつかへ
業平い物語りを云なりひそこ業平は兄弟五
人なりの保親王れ御ふれとを俾豆内
親王ほうみは業平一
さふみーえりうりとそ御ふ兄を
形とうきそまえうまわ

とんのあとこは急うなり都乃字欤おとろきて
みれハ老のさ俄なるわちをはち煩あとまや
おいぬまへはゝねまの迹れあとのこと
いよ〳〵こまくの一さ急うな
さゝめわうまた無常れなゝひろさ行の道なわ
不辞也一うひ疎滅いなくてかゝわされとをむぬ
まゝあふたのまれぬ命をみいよ〳〵みゆくか
——きといふり
ものゝうちうちうちる死てよあ
勅云伊豆内親王奥齢三年九月薨
世中はさらぬまうれおくをゝ
み世もといのうへのなゝ

叙一方のうへをなのかそして世間へうけて云
ありぬするといみをのなくもあまう一切衆
ものゝそうる物れうありよわうんとありけう
ゝまれを則こをれう月連の我毎れたりふ盂蘭盆
をりまう一の比同ふり
むう一おとこ有うわうわうまうまる
ゝはゝくを物うまうてうりむ月うなう
ほうてけわおほ受けの元座ふ
まえまうてすされとも今のく
をくよなんあるむう一けう
あるせん一なるなのおまいわ
なまはるうたけとそおほみさ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45　　ガラス使用

散よあ〳〵たるうわつみた安座なわ
せうう〳〵くりのおねきさめ汁又一躰なり
ゑふのもまろよむり平まは漬なる
我世をはくふのあをかとまはけのひの
波れたれとのはれうまん
あるうちのちのくふうあすとのみはあ〳〵
をまま系氏のときうあをはしてねまひまのあて
田舎とうひあとしそのむかとなん試云氏
下姫王命不越塊なをあそれこれものこわちこ
ちとまろいれなか意也それ天あるふのあすとまも
うひのとのるり沼かひのひのひいるなり下白い世
上ゆ用れねなけきの波乃皆白波おをてをおや
いの通たう事んとを前ち瀬天姫しとなわうれや
をそまく姫りきひ〳〵きるなきものと心れうち
よ句をおをてたなとよみて可拾り沼説なる
わろ〳〵はまりよむ

業平なり

ぬきみれひとあうあるらもゆの
ゆなくをちうう神乃をはきさ緒
はちさの水精乃むをいとうをみつぬ氏たるをと緒
れ引ぬきそむをとはやうりを沼るなるれあ
めそぬきみあをんうあるらんといへまなくも
ちるうハれ也間乃をおくちるあれいまの神ま月
ゑふ也と下白ハちを里下をたる間をおくちは

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

と我神乃をわきみはる分りといふり
とよめりをまた人もらよみやみ
このうたもめくみうたへ乃人もふあを
業平の自記をみうけはりめてく
そりこのうたようへこれなりしそ
ぬーきの名称ハいることとして要なをよまし——て
やんたるより
うるうるみちとをくてうせみ——家内やもちよ
かゑのはへくほる日くれぬ空とりれかる我こやま
はなきのれいさわする史記ほくるもにかのあし
のおをこころ

布ひさのうきぬよわあ
りありうんをうん町とう——うりありても
もう——ぬるも也家内やもちよ——物をのや
らん系富うんこをれ人と不知あ物語るなとも
なりて家なを作て有汐引のゆりるり垂さそて
なとの家記見てそいをひ
つるめその海へめく日はそれ人の家あとういひ
餘情也徐福宅前へ湖乃東なと多中よをたるあ
究りへか面白るりありめ——い業平あり
もろ和乃星かはをのかうれの
まろ住うるのはまれたくあ
時をのかり和み河をの蛍の我をむうされはまの

国立国会図書館　タイトル『閾疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

くゝ次うとなり宵空まるこゝろの初うとい廻う
めゑ字要乃段よゐる也たゝこゝろは初おといひ
てゝ曲ゐゝくゝるくよゐかしうとのへる孫室ゐ
添立文字也いうわ次とハ見通ゝを目乃表異なる
ホをかめんとそゐゝの河へ乃ゐうゐあまもの
たくひうもうゝひろゐ初ゐりゝ表ゐ
志は説うゝ以要の文字おわゝいは通もうゝふ
のゐり我恒方うとゐゝハ海人のたく次のれた
いふゝと表恒ゝなわ家祇可奇酒ゐはゝ庄
なゝゝうゝふゐ也とゐ 牡風北吹上にそる
白菊ハ花うゐゑり浪のよゝするゐ 薗のやゐ蛍座
ねうゐ海士やたく思ひをゝひもよれいをえつゝ

ゐゝうんてゐうりゐゝへまきぬそのようゐあゝ乃うをゐ
ゑてゐゝいとゝそうゝほとめてい南家乃めれゐもも
いてゝうれみゐ乃波ゐよせゝまゝれひろいそいへ
乃う花ゐりてゝぬゐゝうゝれみ家祇たゐ庄ゐ
うゝもうてうゝはゑ祢ひていゝるゝゝいた
よゐゐう

家ゐねうゝぬあゝ座のいゑなわつとめていゐ南
乃風なを吹ありゝそう早的也うきみるいは祢う
うゝひてゝわうれ礼る也見恵ゑいゐ影そる家
○よゝやたゝ薗座の里乃を乃日ようれてよるれてゐ
それ父そわいハ以ハ乃ゐ乃風うれみる乃
ようゝゝゑて志あゝのやゐ乃里る去思ひゝゝい去

わこ法うえ乃のさ―り さひ
ゑかゝあみはを―まさわる
わさつえいうえ乃趣名りい
神社こふいふ事もあなりい
やうのこゝろあり海外のう
なまとも今日如此まれ人まは
なも―をまゝ面こ社藻を風乃ふさよをたる
は表にまいるをんあめなり
ふさせふ白ゆ乃波りてゆへ
云はなこ伐かい―といるる
ねゆ人のうきめそわまれ

是八俳諧か河也ゆ―至あれ
ゑ批判する詞也りのゆは有海不空うあり物也以
云はいうこゝ也双る地ゆくかうひ志たる心あり
むー―いとまるたまあ―ぬあ
そあつまわて月をみくそまう
中幸りかうわ中幸まゑたく
中りひとりい葉幸なも
なはかさい月をもめく―こ
つをまた人のをひとなふそ
うの立文字とれんめこまぬ
云んあり月をけよく貧著
ゆくも紅葉みてを又人社上

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

撫花ふうあくいまよりふらめ
なるうのえうさあすのよるう
おもわりんせいへととうのう
はるふようくさうよみおう
こともおんといふありあえ
見ゆわすのよう紙如とわるとされ不信用と
よー御説あり
せいりんへもあるべし
んよちをうめとたのえうさなふ心もあ
をーよを再尺する俘粉り詞也推量志たれ心あり
ひかー日日のりれさへみはくおとあ三月は
こりうう

このうんをいふみかにんはそうくに
して日のある紙おはえうう
よをーかりおはゆるあり
いにこの月もうおりぬな月乃すくる紙
いふなるその人りいわんをそれ人みあ
ゆくうへなのきふなるとあ
とーめとを志乃かわ乃う
ゆふくれうさへありふをる日
設撰第こよみ人さんとあわ奇のんはぬなり
たう大うよすある月日ふへあるへまよ三志き
はまをそうふうをひみ夕著よさへなりそう
まもおりふ人にあそんーそりうみをくふ

国立国会図書館　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

別 9 ろ 29

天福のなかはわづかなくもあるべし
家の自筆乃なかうともあうをはんのさるす
をわる色ゞれい必ず誠信すへなおおあらひまる
なのみなくくとようんきされす会比ある心ありおう
へなく平等といふ儀なわこひりと思ひもひをて
あひちんたうよりやーきをそへなくくるーれ
と也　世中にうきいやしきなわせめー思ひうらん　山姫乃おおをうすき
をおそへおくひとりみそめぬ四すりもみちち
むーをうるうく世乃あとうりすやあらけん
今乃世をおくあまい芳もう

国立国会図書館　タイトル『閾疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45
ガラス使用

別 9
29

国立国会図書館　タイトル『閑疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用

国立国会図書館　　タイトル『闕疑抄 5巻』 請求記号 WA7-45

ガラス使用